



岡村 小太郎



丁 熊照 氏



亀岡市移転後の開明伸銅

【会社沿革】

開明伸銅株式会社は、創業者の岡村小太郎が昭和 27 年 5 月、京都市下京区に設立した会社です。

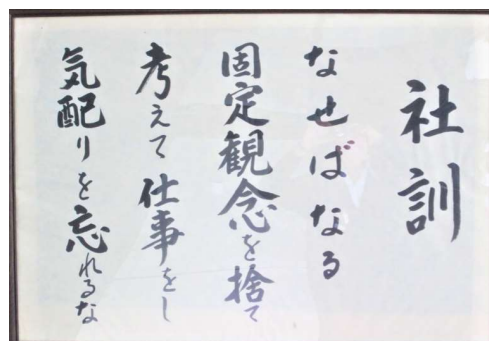
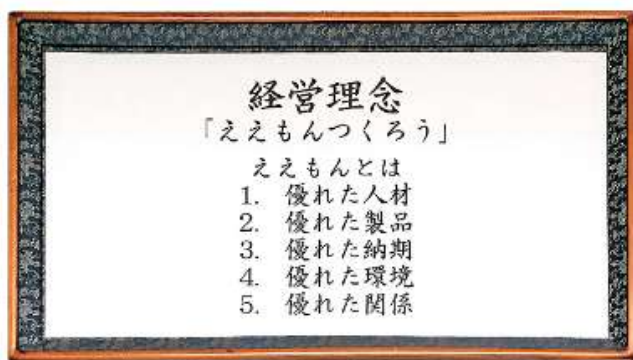
岡村小太郎は上海の学校を卒業し、深い親交のあった中国人投資家、丁熊照氏の支援を得て起業することが出来ました。当社のロゴマークは、外側を当社の生みの親である丁氏のイニシャル「T」が、開明伸銅の「KM」を大きな愛で包んで下さっている様子を表しています。

創業当時は生産設備も整っていない状態から始まりましたが、少しずつその規模を広げていき『異形の開明』として業界でも注目される存在となり、昭和 49 年に亀岡市大井町へ移転、今期で 71 年目を迎えています。

そして 2 代目社長の岡村洋子（岡村小太郎の長女）からバトンを渡された、3 代目 岡村圭一郎（岡村小太郎の孫）が現在では代表取締役を務め、伸銅品・アルミニウム合金の押出材を製造・販売する会社となり今日に至っています。

2021 年 4 月には岐阜県養老町にある「立花金属工業株式会社」をグループ企業に迎え、お互いの強みを活かした他社に真似の出来ない特徴を持った企業を目指し協業を始めています。

【経営理念・社訓に込めた思い】



私達は当社の経営理念である「ええもんつくろう」を合言葉に、日々生産活動を続けています。

写真右の「社訓」は2代目社長 岡村洋子の時代に策定されたものです。

当時の開明伸銅には「出来ない」という言葉がまかり通っており、変革に対する強い抵抗がありました。

しかし環境の変化に合わせて変えていかなければ、企業は生き残ることが出来ません。その変革に対する決意がこの社訓に込められています。『なせばなる 固定観念を捨て 考えて仕事をし』という言葉の意味は「やれない理由」ではなく「やる方法を考える」ということです。『気配りを忘れるな』という言葉に込められた思いは、人に対する思いやりを忘れてはならないことを表しています。挨拶をする、お礼を言う、人を手伝う、そんな基本的なことも出来ない会社に『ええもんをつくる』ことなど出来ません。他人を、お客様を思う心が、製品に、納期に、環境に繋がっていくと開明伸銅では考えています。先々代や先代のDNAを脈々と受け継ぎ、この思いが現在の開明伸銅の経営理念へと繋がっています。

開明伸銅では何よりも「人材」を一番に考えており、特に社員教育に力を注いでいます。外部研修のほか、当社では社内勉強会も活発に行われており、経営、生産、機械に関することなど、その種類は多岐にわたっています。

2代目社長の岡村洋子がその人生を通して「女性にも出来る」ということを実践してきたように、女性活躍推進をはじめ、多様性をもった次世代に活躍する人材を育てています。また多様な働き方を実現する仕組みとして、時間軸と教育軸で作られた9タイプの勤務体系から自分に合った働き方を選択する制度も導入しました。

開明伸銅ではこれからも様々な改革に柔軟に取り組み、更に働きやすい職場づくりを目指していきます。

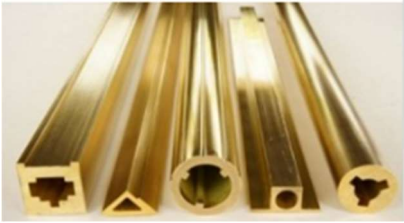
SDGs 目標④「質の高い教育をみんなに」

目標⑤「ジェンダー平等を実現しよう」

目標⑧「働きがいも経済成長も」

【製品の紹介】

黄銅異形中空棒 『ミトーセル』



伸銅品はビレットの溶解・鋳造から、押出や様々な矯正に至るまで

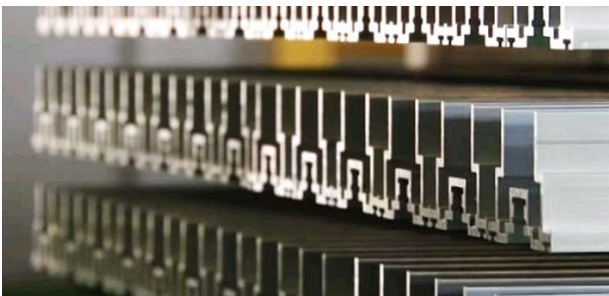
自社での一貫生産を行っています。製品が不要になっても、繰り返しまた

伸銅品として生まれ変わることができるリサイクルが可能な製品です。

そして独自の技術により、黄銅異形中空棒の「ミトーセル」を開発致しました。

開明伸銅では初めから様々な形状の穴を空けて長尺を押出しすることができ

2次加工の必要性を減らす環境対応製品となっています。「ミトーセル」という名前は社員が付けたものですが、“先を見通す”という言葉から生まれました。他にも地球環境に配慮したモノづくりを行っており、人体に害を及ぼす影響の少ないカドミレス材なども製造しています。当社の異形棒は一般的に平角などの形から削り出しを行い、2次加工を経て製品となりますが、異形棒によって需要家様の加工時間や工数削減、消費エネルギーの削減を実現することも可能です。これらの製品は、建築金物や自動車、電力、計器と様々な工業製品に使われているほか、美術館でも使用していただき私たちの暮らしを支えています。



アルミニウム形材については自社で鋳造は行っておらず、原材料であるビレットを国内外から購入しています。

アルミニウム形材は様々な形状のものから一般的な平角、角パイプなど多岐にわたって生産しており、これらの製品は内装建築材、機械部品、トラック部材、装置部品、LED照明などとして多岐に使われています。

アルミニウムもリサイクル可能な金属として認知されています。

また、再生可能エネルギーを利用され精製されたビレットで、製品を製造しようとする取り組みも進んでいます。

SDGs 目標③「すべての人に健康と福祉を」

目標⑦「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

目標⑨「産業と技術革新の基盤をつくろう」

目標⑫「つくる責任つかう責任」

【SDG s への取り組み】

開明伸銅では 2015 年にエコアクション 21 の認証登録を受け、環境に関する活動を長く継続してきました。

当社にとって SDG s はエコアクション 21 活動の延長線上にあるものと考えており、私たちの事業活動を通じて持続可能な社会の実現に向けて、本年 2 月に SDGs の活動宣言を行いました。

人材採用の場面でも、今の学生達は身近に SDG s を感じるようになっており、企業の環境方針や社会貢献の内容に大きな関心を持つようになっていきます。また新規取引や資金調達を行う場面においても、その視点は大変重要なものとなっています。

①地球環境に配慮したモノづくり



- ・人や環境に配慮した黄銅異形中空棒「ミトーセル」の開発
- ・エコアクション 21 の認証継続
- ・CO2 排出量の把握と削減に向けた具体的な取り組みの実施

②全ての従業員が輝ける会社づくり



- ・階層別教育の継続実施
- ・男性従業員の育児休暇取得の積極的な推奨
- ・「クレド」の配布や会議を通じた従業員との経営理念の共有
- ・女性活躍推進の取り組み

③地域社会との共存共栄



- ・地元の学校からの社会見学や就業体験の受け入れ
- ・各種関係団体への寄付
- ・地元人材の雇用や近隣企業の積極的な利用

【今後の取り組みとSDG s への展望】

製造業として当社では、多くの電力や LNG などの燃料を消費しています。

2030 年に向けた CO2 総排出量削減及び、2050 年カーボンニュートラルへの取り組みをすでに始めていますが、今後さらに具体的な活動が必要になってきます。

当社の事業活動を通して SDG s に貢献し、世界が直面している社会問題に目を背けることなく活動を継続していくことが、目標達成の近道であると私たちは信じています。

また、この活動が一部の経営層だけのものに終わらないよう、全社員に浸透させることも重要です。

大きな社会課題の解決に向け、自社だけの取り組みではなく様々な機関と連携することにより、新たな価値を創造していきます。



代表取締役社長 岡村 圭一郎

【会社概要】

企業名 : 開明伸銅株式会社

代表者 : 岡村 圭一郎

創業年月 : 昭和 27 年 5 月

資本金 : 9,000 万円

従業員数 : 120 名

所在地 : 京都府亀岡市大井町並河 3-10-1

URL : <https://www.kaimeishindo.com>

